

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和5年4月4日

事業所名 放課後等デイサービス ALOHA

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		基準以上のスペースを確保し、エリアを決めて活動をしている	
	2	職員の配置数は適切である	○		法令を遵守している	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		段差はあるが、手すりや滑り止め等の対応をしている。バリアフリーを必須とする児童がいないため、現状維持をしている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		支援前後でのスタッフ間での振り返りを行い、支援方法の再確認をしている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケート結果もアンケート以外においても保護者から助言・提案があった際はスタッフ間で協議をし、可能な限り改善や導入・工夫に努めている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて公表後、保護者へもホームページを拝見してもらうよう周知している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者委員は設けていないが、保護者、計画相談員さん、学校の先生等外部の方より、様々なご意見をいただき、業務改善や連携に努めている
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		社内研修・外部研修に積極的に参加をする	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		モニタリングや面談においてニーズの整理や課題を共有し、お子様に合わせた支援計画を作成している	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントシートやサポートブック、発達検査結果等を活用している	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		お子様とスタッフ含めて外出や活動を考え、立案している	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		1か月まとめて活動予定表を作成している。新しい活動や前年度の課題を工夫して導入する	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		活動、イベントによって視点や支援方法を共有している。また、都度必要な課題や振り返り等も丁寧に行う	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		お子様の特性に合わせた個別活動や集団活動での支援を行う。必要に応じて振り返りを行う	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		社員、パート含めてスタッフ間で特記や支援内容、情報共有を行う	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		社員、パート含めてスタッフ間で特記や支援内容、振り返り、情報共有を行う	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		活動状況や支援の様子をその日のうちにスタッフみんなて記録の作成をしている	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		半年に一度のモニタリングをしてお子様の状況共有をし、支援の見直し等を行う(本人・保護者・相談員・デイ)	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		普段できない体験や子どもたちがやりたいと思った活動の提案、将来を見据えた支援を行う	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管が担当者会議やモニタリングに参加をしている。可能な時は現場スタッフにも一緒に参加し、色んな情報共有を他事業所さんとやり取りをしている	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		計画相談員さんや保護者と一緒に学校含めての会議を積極的にさせてもらう。送迎、宿題等は連絡帳や電話、直接のやりとり等で共有している	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		医療的ケアが必要な方は現在利用していない。問い合わせがあった場合は、計画相談員さんに相談をしている
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		保護者からの情報共有、計画相談員さんからの情報を共有している。就学前の事業所・園には、保護者の許可のもと、情報共有を行うことは可能。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		保護者の許可を得た上で、移行される事業所さんや計画相談員さんと一緒にデイでの状況やお子様の様子を共有する場を設けている	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要に応じて、相談や研修の参加、連携をしてよりよい支援に努めている	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		公園、科学館、川遊び、もちつき、バザー、きょうだい児等、色んな環境で色んな人との関わる場を設けている	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		自立支援協議会等への参加は積極的に参加は出来ていない。開催のお知らせが来た時は参加していく
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳や送迎時、LINEや電話等で都度状況や様子の確認をしている	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		親子一緒に面談、保護者面談、電話等で相談・会議・面談・関わり方や対応方法を行う	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明をしている。活動で生じる負担金は、予めお知らせをして説明を行う。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		電話、LINE、連絡帳、来所して面談等色んな方法で対応をして、必要に応じた対応を行う	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		開催を試みようとする時にコロナ感染者が落ち着かず、茶話会の開催には至っていませんが、バザーやもちつき、ALOHA放生会等を行う。	コロナも落ち着いてきたため、状況に応じて茶話会の開催も行う。引き続き、イベントに保護者やきょうだい児、地域の方を招いていきたい
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情解決窓口を設け、苦情解決マニュアルを作成し、都度対応をしている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月、活動予定表を作成をし、配布をしている。また、お子様へも直接LINEをして発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	○		研修を行い、十分注意を払っている。今後も意識を高めて努めていく	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		口頭や視覚化(文字、イラスト)等、特性に合わせて対応するよう配慮する	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		ハロウィンやバザー、夏祭り、清掃活動等を通して、地域の方との関わりを設けている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		マニュアルを作成し、閲覧できるようにしている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年に2回は最低行い、都度必要に応じて回数を増やして訓練、勉強、対応方法を学ぶ	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		法人内で虐待防止研修を行い、職員間で適切な対応を学び、意識を高めて支援を行う	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		法人内で身体拘束研修を行い、職員間でも適切な対応方法を学び、意識を高めて支援を行う	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		契約時、見学時にアレルギーの有無を確認し、対応をする。都度、保護者に確認をとり、最善の対応を行う	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ミーティング時の振り返りで共有をし、ヒヤリハットが起こった時は書類作成をし、共有をしている	